

この動画は愛知県犬山市と岐阜県各務原市の間を流れる「木曾川」の素晴らしい景観や人々の営みとの関わりが、後世に残すべき大切な資産であることを広く知っていただくために編集したものです。

## 【木曾川の景観】

木曾川は長野県の源流から山間を下る渓谷部分と、濃尾平野を抜ける平野部分で形成されています。

犬山・各務原両市は平野部分へと切替わる「要」に位置しており、古くは木曾ヒノキなどを筏に組んで流す際、犬山・各務原で川幅が広がることから筏を組みなおした地点といわれています。その名残は材木町という町名にも残っています。

美濃加茂市から坂祝町、可児市を経て犬山・各務原に至る中流部は、ヨーロッパのライン川周辺の景観に似ていることから「日本ライン」とも呼ばれ、奇岩と城がもたらす素晴らしい河川景観を誇っています。また、「名勝木曾川」として国の名勝指定を受けています。

犬山城、鵜沼城跡より下流部では歴史上、川の流れが何度も変わってきましたが、周辺では歴史上重要な戦の跡地や川を守る歴史的構造物などもみられます。

各務原市川島の河川環境楽園内にある木曾川水園や自然発見館、アクア・トトぎふでは、木曾川の生物や環境などについて楽しく学ぶことができます。

## ○映像内のコンテンツ一覧

・木曾川上流部(源流から日本ラインまで)・日本ライン・栗栖の渡し・鵜沼城跡・犬山橋(ツインブリッジ)・犬山城・犬山頭首工ライン大橋・頭首工魚道鮎の遡上・伊木山・伊木山あじさいの小径・前渡不動山・承久の乱供養塔・前渡の渡し・前渡猿尾堤・河川環境楽園・アクア・トトぎふ

## 【木曾川と人々の営み】

木曾川には四季折々の人々の営みがあり、河川の景観にいろどりを与えています。

冬は日本海側からの寒波が「伊吹おろし」と呼ばれる季節風として吹き込み、何度か雪をもたらします。木曾川の真っ白な雪景色は、昔から変わらない凜とした雄大さを感じさせます。

春になると犬山中学校生徒による机腰掛洗いや犬山祭、遊覧船めぐりや稚鮎の放流など、川に親しむ行事が増え、川沿いの満開の桜のもと華やかさを感じさせます。

夏は川の魅力の本領を発揮するような営みが増えます。木曾川鵜飼や大安寺川のホタルなどの自然環境を身近に感じる場として活用されるほか、

花火、宵祭りなどの賑わいの場や川遊びなどレジャーの場ともなる時期です。

秋には山間の各所でモミジやイチョウの紅葉が始まり、寒さの中にも燃えるような景観が広がります。

### ○映像内のコンテンツ一覧

・雪の犬山城と城下町・犬山中学校の机・腰掛洗い・貞照寺・犬山祭・稚鮎の放流・頭首工魚道鮎の遡上・鶉の飼育小屋・木曾川鶉飼・大安寺川のホタル・かわしまさんさんなつ  
燦々夏まつり・宵のいぬやMARCHE・木曾川ロングラン花火・リバーアクティビティ  
かかみかはらおおはし ぼんしょうえん うらくえん じょあん  
イ・各務原大橋・萬松園・有楽苑・如庵

### 【木曾川の歴史・文化】

木曾川は交通の要所として古くから活用されていました。

栗栖・内田地区などには人荷を船で渡す「渡し」があり、中山道や東山道へつながる重要な拠点として鶉沼宿などの宿場をつなぐ役割を担っていました。

また、木曾川の景観のすばらしさを求めて住まいを構える歴史人もいました。木曾川の各所で発電所建設に尽力し電力王と呼ばれた「福澤桃介」を支えた日本初の近代女優「川上貞奴」の菩提寺として貞照寺が建立されたほか、参拝のために同地に別荘である萬松園が建設されました。

尾張藩は茶の湯文化が盛んで、城下町の中の町家にも多くの茶席が設置されていました。特に織田有楽斎が建てた国宝「如庵」が移設されるなど、今も茶の湯文化に親しめる環境が整っています。

木曾川における最も特徴的な景観をなす国宝犬山城は、歴史的には岐阜城、小牧城を見渡せる拠点であることから様々な戦の舞台ともなりました。「承久の乱」においても戦の遺構が残されており、前渡不動山には戦に関わる石碑などが集められ、安置されています。

### ○映像内のコンテンツ一覧

・栗栖の渡し・うとう峠・中山道鶉沼宿・萬松園・貞照寺・内田の渡し・如庵・犬山城・承久の乱(前渡不動山供養塔)・前渡猿尾堤